

台東育英

台東区立台東育英小学校

No. 1

統括校長 瀬下 清

<http://www.taitocity.net/taidouikuei-s/>

新年度を迎えて ～「学び」の楽しさを～

統括校長 瀬下 清

校庭の桜も満開となり、春爛漫の季節を迎えました。

令和6年度、台東育英小学校の教育活動が始まりました。保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、ご進級、誠にありがとうございます。

本校は、64名の新入生を迎え、全校児童399名、14学級で元気いっぱいスタートいたしました。始業式での子供たち一人一人の表情は、進級した喜びと、新たな気持ちで学校生活を始めようとする意欲を感じました。台東育英小学校での一年間が、子供たちにとっての安心・安全な学びの場になるよう努めています。

さて、私の周りには、「学び直し」をしている先輩や友人が多くいます。社会人を経てから大学や大学院などで学んでいるのです。先日も、幼児教育について、大学院で学び直しをしている元園長先生とお話をしました。大学院で新たな方々との出会いとともに、学びのお陰で視野が広がっていく喜びを語る表情は、生き生きと楽しそうで、何だかお若くなったように感じました。是非、自分も学び直しがしたいという気持ちに駆り立てられました。「学ぶ」とは、楽しいことであると改めて思いました。

一方、子供たちが、自ら学習に取り組み、学びに興味をもつことが、時に、難しく感じることもあるのは、何故でしょうか。それは、学習が楽しくなかったり、苦手意識をもっていたりするからです。反対に、ゲームをし続けたり、動画を見続けたりすることは、声をかけずともできるのです。その土台にあるのは、「楽しい」という感情です。すすんで学ぶ子供たちになるために大事なことは、「学ぶことは楽しい」「勉強が得意」と思えるようにすることが大切です。

日本の学校教育では、「主体的な学び」という試みが様々となされています。子供たちにとって、新しい知識の習得は、教えられるものになりがちです。そこで、私たち教師の役割は、子供たちを引っ張り上げるのではなく、子供たちの思考に「足場かけ」することだと思います。まずは、「おもしろいね。一緒に調べてみようか。」など、子供の好奇心に寄り添い足場をかけ、徐々に足場を外していきたいです。そのなかで、学び方を覚えていくものです。学びたいという意欲や、学ぶ行為は、人生を豊かにしてくれます。一人一人の子供たちの笑顔が輝けるよう全力を尽くしていく所存です。本年度も本校の教育活動にご理解とご支援のほど、何卒よろしくお願いを申し上げます。